

総務産業常任委員会 行政視察研修報告書

【視察先】

岐阜県岐南町 （令和6年10月30日）

愛知県東郷町 （令和6年10月31日）

愛知県みよし市（令和6年11月1日）

【報告者】

委員長	熊谷 健作	P1～4
副委員長	多田 利浩	P5～9
委員	工藤 健次	P10～11
委員	上野 満	P12
委員	衛藤 清隆	P13～14
委員	河野 美華	P15～16

行政視察研修報告書（個人）

作 成 者 氏 名	熊谷 健作
視察先・視察日	岐阜県岐南町、愛知県東郷町、みよし市
視 察 目 的	１．近年各自治体で問題となっているハラスメントに対応するための条例を議員発議で制定する準備のために研修を受ける。 ２．日出町で喫緊の課題となっている地域交通の改善のため先進地に学ぶ。 ３．日出町で現在進行中の工業団地造成における企業誘致の手法について先進地に学ぶ。
所 感	
●岐南町 人口２５，８９０人（令和２年）、面積７．９１㎢のコンパクトな町で、議員定数は１０人である。町長、議長のお出迎えを頂き、ご挨拶の後ハラスメント問題、地域交通について議員、職員から丁寧な説明をしていただいた。 ○ハラスメントの事例とその対応、今後の課題 前町長が起こしたハラスメント事案について順を追って説明を受けた。発端は週間文春の取材、その後の記事掲載で広く知れ渡ることになった。町、議会も初めてのケースでその対応に追われた。議会としては百条委員会の設置も考えたが、事の性質上難しいという判断で第三者委員会での調査に委ねた。要綱を制定し、弁護士会に委員の選任をお願いした。調査報告書が提出され、議会で町長の辞職勧告決議を可決、その後不信任決議案を否決等の一連の経緯の後、町長が辞職した。 報告書では認定事実としてセクシュアルハラスメント、パワーハラスメントを認めた。その内容や町長の妨害工作、犯人捜し、職員アンケートの結果等の説明を聞き、驚きを禁じ得なかった。 この事案の原因、背景としては町長自身の特異な性格やハラスメントに対する無自覚、無理解と組織の対応が機能不全になっていたことがあげられる。 再発防止のための提言として高潔な倫理観を持つ者による町政の実現、相談窓口の実行化、人事制度・就業環境の改善、条例の制定を列記している。 結果として新町長には議員出身の女性の町長が誕生し信頼回復に向けて取り組んでいる。また、町は条例制定のための作業に着手し、若手職員の意見を重視して進行していて、来年３月提案を目途にしている。	
	

○総合計画の策定

第6次総合計画の策定の取り組みについて質疑応答を行った。町民アンケートを実施し2,000人に郵送し833人から回答があった。審議員に議員が入っていることの正当性について質問したが、そう疑問に思っていないとの回答だった。また、総合戦略の作成には議長が参加している等の執行部と議会の垣根が低いことに違和感を覚えた。

当町の出色はデジタル推進課をいち早く設置、合計特殊出生率は県内1位、有配偶率も高い。給食の無償化を東海地方で初めて行った等である。

○地域交通

「住み続けられるまちを目指して地域で育てる公共交通」を基本方針にしてコミュニティバスとデマンドタクシーの併用と民間バス、タクシーによる運行でまかなっている。特徴的なのはコミュニティバスとデマンドタクシーの同時運行を開始すると利用者が2.2倍になった点である。またタクシーの停留所を77か所に増やして利用しやすくした。そのことで県からの補助金が無くなったそうである。運営主体は岐阜バスに委託している。免許返納を目的として始めた事業で、福祉事業として捉えている。年間予算は3,500万円、利用者は10,150人である。

●東郷町

人口43,904人（令和6年）面積18,03km²で議員定数16人である。副議長、各委員長、職員の方々に説明をいただいた。

○ハラスメント事案

テレビ、新聞等で話題になった事案で、聞きづらい、答えづらい内容であったが具に答えてくれた。発端は職員から議員全員に郵送で告発文が送られたことによる。すぐに全員協議会を開催し、対応として職員へのヒアリングを行った。臨時議会で不信任決議を諮ったが否決。その後議会は混乱し、百条委員会の設置を図るも全会一致を得られず、議長を除く全議員参加の「ハラスメント事案検証特別委員会」で調査するようになった。結果的にはこのほうが良かったという感想である。委員会では再度町長、職員からヒアリングを行う等し、中間報告を出した後町長は辞職した。現在、条例制定に向け作業部会（6名）を設置し、町当局と連携しながら作業を進めている。前文で議員がこの事案を踏まえての理念を示している。

○地元高校生との懇談会の開催

「議員と高校生のしゃべり場」と題して高校生からの町への要望や活性化のための提案を聞く場を数回設けている。そこでは活発な本音の意見が出て毎回盛り上がっている。その様子を議会報に掲載し、また地元紙でも報道されている。

内容はゴミ減量のアイデアや議会報をスマホで読めるようにしてはという提案等々の実りのある意見交換ができています。



○町民との意見交換会

「ご当地報告会」として町内を４班に分けて、そこの出身でない議員が報告会を行っている。また、予算、決算の報告会を年２回、議長主催の区長との意見交換会を年１回行っている。議会モニターを定員２０名で公募し気軽に参加できる場を設けている。

●みよし市

人口６１，３８０人、面積３２，１９㎢で議員定数２０人である。

市長の丁寧なご挨拶の後、担当委員長、職員の方に説明をいただいた。当市は近年職員の働き方改革を掲げ午前９時から午後５時までの就業時間である。また、脱炭素として水素を使った車を推奨している。生産年齢人口が県内１位でもある。

ここでは地域交通、企業誘致を学び、現地視察まで案内をしていただいた。

○地域交通

ほぼ平地の狭いエリアの市内でコミュニティバスを３路線に分けて走らせている。路線を３つに分けたのは停留所を近距離に設置したため、運行時間を短縮するための方策である。特徴的なのはバスの停留所から接続して乗り継ぎタクシーを用意していることで、２０分ほど前に予約していれば乗ることができる。

また利用者へのアンケートを定期的実施し、きめ細かい分析を行っている。その利用分析表を見ると、よくここまでという集計をしている。この作業を１名の職員がしているのも驚きであった。さらに、市長肝いりの事業で「おでかけタクシー」の実証実験を実施している。これは６５歳以上の高齢者、障がい者、要介護・要支援認定者、妊産婦でバスの乗車が困難な人が３００円で市内どこでも利用できるサービスである。市長の言によると福祉事業として取り組んでいるとのことである。

また前記２町と同じく市外の病院等へもコミュニティバスを走らせている。

○企業誘致

県の中央に位置し、トヨタの関連工場が近くにあり交通アクセスも良いという恵まれた環境にある上、各補助金、助成金も準備している。工場の新設、増設の補助金だけでなく電気自動車充電設備、奨学金返還、キャリアアップ、ベンチャー企業等の多くの支援制度を設けている。また就労支援も充実している。こうしたことが生産年齢人口の高さにつながっている。

近年は工業団地の用地が不足していて、市街化調整区域に造成することがあり、その手順に手間取っているとのことであった。また、自動車関連以外の進出も進んでいて、現地調査で行ったのは事務用品のパイロットと「あんこ」の工場であった。

愛知県自体が企業誘致に積極的であり、県、商工会の支援事業もメニューがたくさん用意されている。



調査研究・政策提案事項

研修の成果を町政に活かすために、まずハラスメント対策は町長、議員、職員のなご一層の意識改革が必要であると感じた。職員は研修等で学習していると思うが、我々議員も研修に積極的に参加し古い考え方を改めていかなければならないと痛感した。

そして町当局と足並みをそろえてハラスメント防止条例の制定に向けて、更なる研究を重ねて尽力していきたいと思う。目標としては来年度中の制定を目指したい。

地域交通はまさに喫緊の課題であり、過去に議会の要望で実施したコミュニティバス事業がうまくいかなかったことや担当課が熟慮し、関係機関と協議して取り組んだデマンドタクシーが今一つということもあり、この問題の困難さに頭を抱えている。その要因の一つが事業を細かくし利用者の満足をいただくためには多額の費用がかかること、人口の多い都市部に比べ利用者がさほど多くないこと、この施策が国の認可事業であるため町の裁量で全てを決定できないこと等があげられる。特に隣の市へのコミュニティバスの乗り入れはその市の交通会議の許可が必要なことが妨げとなっている。

研修を通じての今後の対応として考えられるのは、コミュニティバスの路線を、地域を絞り込んで増やし停留所を増やすこと。接続タクシーの実施。（どれほどの必要があるかの調査が必要）、別府市へのコミュニティバスの乗り入れのための協議に県や県のタクシー協会を巻き込むこと。（今回の3市町とも交通会議は柔軟であった。）デマンドタクシーの利便性の向上等である。これらを、さらに委員会全員で協議し提言していきたい。

企業誘致では、今回研修したみよし市とは立地環境が大きく異なっているが、日出町も交通アクセスには恵まれているほうなので、今後重要なのは手厚い支援金、助成金の整備であると考ええる。しかしながら今の財政では厳しく、新たな国や県の助成金に頼るしかない。その方面の情報を収集し有利な助成制度の創設が必要と思う。また造成地への生活道路の整備はみよし市でも悩ましい課題であるとのことのお答えだった。住民の方たちに不便をかけないような方策が求められる。

この研修ではまずハラスメントの実態を直にお聞きすることで、その置かれた当事者の状況や対応の難しさを充分に知ることができた。答えづらい質問に対応してくれた議員各位に感謝申し上げたい。2町の町長とも議員出身であったが、議員時代には、同僚だった議員にはその兆しが見えなかったという。町長になって激変したとのこと。

地域交通については各市町とも試行錯誤を繰り返しながら、住民の要望に沿った施策を展開している。地域の状況はかなり違っていたが、現況の不便な点、不具合な箇所を洗い出し、冷静で細やかな分析をすることが肝要だと認識した。今後、担当課とも議論を尽くしていきたい。

以上が主な感想であるが、3市町の皆さんには丁寧な対応をしていただき、重ねてお礼を申し上げたい。委員会のメンバーも活発に質問を出してくれて、盛り上がった研修となりました。これからの議員活動に大きな糧となる3日間であったと確信しています。

行政視察研修報告書（個人）

作成者氏名	多田 利浩
視察先・視察日	①岐阜県羽島郡岐南町 令和6年10月30日（水） ②愛知県愛知郡東郷町 令和6年10月31日（木） ③愛知県みよし市 令和6年11月1日（金）
視察目的	①岐南町：A)ハラスメントについて B)総合計画策定におけた取り組みについて C)公共交通について ②東郷町：A)ハラスメントについて B)高校生との意見交換について ③みよし市：A)地域公共交通について B)企業誘致について
所 感	
①岐阜県羽島郡岐南町 ・岐南町は人口26,161人、面積は7.9キロ㎡（日出町のおよそ10分の1）、令和6年度の一般会計予算額は91億円。アクセスは岐南駅から名古屋鉄道を利用して名鉄名古屋駅まで30分。町の北側は県庁所在地の岐阜市に隣接しています。また、南側は木曽川を挟んで愛知県一宮市があり、岐阜県側の玄関口になっています。 A)ハラスメントについて 令和5年5月、前町長（74歳）によるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントが週刊誌に報じられたことから問題化しました。前町長就任後のハラスメントについて第三者委員会（利害関係のない弁護士3名で構成）を設置し、調査報告書が提出され、前町長による多数のハラスメント行為があったと認定されました。町職員へのアンケートでは男性・女性ともに過半数以上が「前町長から不快に感じるようなことがある」と回答。また、「同僚職員が前町長からハラスメントに当たるような行為を受けていると感じたことがあるか」の問いには8割以上が「ある」と回答しています。令和6年3月に前町長はハラスメント認定に伴って辞任しました。同年4月に町長選挙が行われ、前町議会議員の後藤 友紀氏（ごとう ゆうき、47歳、初の女性町長）が当選しました。デリケートな問題にも関わらず、職員らハラスメントについての詳細な説明を受けました。議員は「議員はハラスメントの実態を知らなかった」「役場内の風通しが悪かったので情報が伝わってこなかった」と。「議会としてハラスメント条例の制定を行いたい」「さらに若手議員の意見も取り入れて役場組織の立て直しを行いたい」と伺いました。日出町でも同様にハラスメント防止のための条例制定が必要だと感じました。 B)総合計画策定におけた取り組みについて 岐南町の人口は増加し続けています。しかし、全国的に少子高齢化が進む中で生産年齢人口の減少や社会保障経費をどうやって確保するかが課題になっています。「みんなでつくる魅力あるまち・ぎなん」を実現するために、総合計画を策定し「実施計画」では3年間毎年更新しながら実現に向けて取り組むと説明を受けました。2018年の住民アンケートでは対象者2000人に対して833人（41.7%）が回答。町の好感度では「好き」が45%、町の居住願望は「ずっと住み続けたい」が38.3%と、共に良い結果が出ています。また、本町の将来像（どのようなイメージのまちになってほしいか）については「災害や犯罪の心配がなく、安心して暮らせる町」（61.6%）、「子どもからお年寄りまで、きめ細かい福祉サービスの充実した福祉の町」（59.4%）と回答があったそうです。転出を抑えるための工夫として、平成25年から東海地区初の給食費	

無償化を行っています。このような工夫も町の高い好感度につながっていると感じました。

C) 公共交通について

岐南町は、町の面積が 7.9 km²とコンパクトシティ。高齢者の運転免許返納者が多くなる中で、自主返納者促進の福祉事業として、高齢者の地域での移動手段確保のためにデマンド型コミュニティタクシーを運行しています。2022 年には停留所の拡充を行い、利用者が増加しています。利用者のアンケートでの総合的な満足度(「良い」「やや良い」「普通」)は全体の 97.1%と高い結果を得ています。利用目的は「通院」が最も多く 45.7%、「通勤・通学」は 20%の結果からも高齢者の利用が多いことが伺えます。コミュニティバスの場合は経費がかかり、費用対効果が悪いという結果が出ています。コミュニティタクシーへは、「便数・停留所の増設」「予約方法の簡便化」などの要望が出ています。コンパクトシティならではの強みを活かしてコミュニティバスよりもコミュニティタクシーの運行が適していると感じました。



後藤友紀 岐南町長の挨拶



岐南町庁舎 入口

②愛知県愛知郡東郷町

・東郷町は人口 43,875 人、面積は 18 キロ m²(日出町のおよそ 4 分の 1)、令和 6 年度の一般会計予算額は 160 億円。名古屋市と豊田市の中間に位置し、両市の通勤通学圏として栄えてきた。アクセスは東郷町中心部から名古屋市中心部まで車で 35 分ほど。

A) ハラスメントについて

令和 5 年 11 月、前町長(58 歳)によるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントが地元新聞に報じられたことから問題化しました。東郷町の場合はマタニティハラスメントやその他のハラスメント(精神的・身体的な苦痛を与える)も問題視されたようです。前町長のハラスメントについて第三者委員会(利害関係のない弁護士 3 名で構成)を設置し、令和 6 年 4 月に調査報告書が提出されました。職員に対してのアンケートやヒヤリングでハラスメントが明らかになりました。アンケートは職員 739 名(正規職員・臨時職員)に対して実施され、そのうち 582 名が回答しました。前町長よりハラスメントを受けたとの回答が 108 名、他職員へのハラスメントを目撃との回答が 138 名あったそうです。また、433 名が「町長のハラスメントに対して批判的な意見」を記述しています。4 月 23 日に第三者委員会の記者会見が開かれ、24 日に前町長が辞職願を議会に提出、26 日の議会で承認されて辞職しました。6 月に町長選挙が実施され、町議会議員出身の石橋 直季(いしばし なおき、39 歳)氏が当選し町長に就任しました。東郷町でもデリケートな問題にも関わらず、詳細な説明を受けました。岐南町の第三者委員会と比較すると、町職員の尊厳や人格までもも否定する前町長の激しい発言があったそう

です。首長と職員の良い関係を構築できてこそ、住民へ用サービスが提供できると常々思っています。両町が新町長のもとで、職員との良好な関係が構築できるように願うばかりです。

B) 高校生との意見交換

次の時代を担う高校生に町政について理解を深めてもらい、町政や町議会に対しての意見や要望を聞く機会として愛知県立東郷高等学校の生徒会役員と懇談会を開催しています。今までに4回開催して、2時間の意見交換を行っています。「とうごう議会だより」には「生徒と議員で本音のしゃべり場」という記事が掲載されています。この懇談会の成果として、通学路の改善や町内の危険箇所マップの製作が行われたそうです。生徒から議員に対して「年齢に関係なく地域交流ができる運動会を開催してほしい」「学校以外で勉強する場所が欲しい」、議員から生徒に対して「議会に関心を持ってもらうために、積極的に議会だよりを手にとってほしい」など毎回積極的な意見交換が行われています。今後は中学生との同様の意見交換を行いたいそうです。日出町でも同様の取り組みを行いたいと思いました。

③愛知県みよし市

・みよし市は人口 62,100 人（この 30 年ほどで約 2 倍に増加）、面積は 32 キロ㎡（日出町のおよそ 5 分の 2）、令和 6 年度の一般会計予算額は 289 億円。愛知県のほぼ中央に位置し、豊田市や東郷町に隣接しています。名古屋市と豊田市の間に位置し、両市の通勤通学圏として栄えてきました。アクセスはみよし市中心部から名古屋市中心部まで車で 45 分ほど。地下鉄とバス乗り換えで名古屋駅から 60 分。現市長は小山 佑（おやま たすく、47 歳）氏。3 年前の選挙で初当選しました。

A) 地域公共交通について

みよし市の多くのエリアをカバーするように 3 路線の「さんさんバス」と「名鉄バス」が運行しています。さらに、乗り継ぎタクシーで不便なところをカバーしています。乗り継ぎタクシーはサービスは、さんさんバスの利用が不便な地区で、「乗継タクシー乗降場」と「さんさんバスのバス停」との間を空きタクシーを利用して運ぶサービスです。みよし市内の公共交通の人口カバー率は（駅から 800m、バス停から 500m 圏内）は 96.6% と非常に高いです。全国的に見てカバー率の高い地域は、首都圏や近畿圏で公共交通が発達し、多くの地域では自動車をもたない生活が十分可能なところが多いです。公共交通今年実施した地域公共交通計画のアンケートでは、地域公共交通が充実している中で運転免許を持っていて自家用車を運転しているという回答が 8 割でした。みよし市で約 3 万台ほどの乗用車が登録されていて（日出町は約 9000 台）、トヨタ自動車のある豊田市に隣接し、トヨタ自動車の工場も 4 か所ある都市で自動車が多いと感じました。このことから、「どの手段の地域公共交通も利用していない」が 7～8 割というアンケート結果が出ています。運転免許を返納した人にとっては、地域公共交通は「移動の重要な交通手段」であることがアンケート結果に現れています。今後の課題としては「運行本数を増やしてほしい」との意見があります。さんさんバスの利用状況は、年間利用者は（コロナ禍を除いて）年々増加し令和 5 年は約 35 万人（この 10 年で 10 万人増加）、1 日平均の利用者は 955 人、1 便あたりの利用者は 10 人。利用者の増加に伴い、令和 5 年の運行経費は 2.2 億円とこの 10 年で 2 倍になっています。研修時に市内で見かけた「さんさんバス」にも数人の乗車がみられ、よく利用されているという印象を受けました。現在、介護予防の環境としてバスの利用が困難で外出を控えている市民を対象に「おでかけタクシー」の実証実験を行っています（実施機関は令和 6 年 6 月 1 日～11 月 30 日）。市内移動限定で、利用料金は

300 円。人口規模や面積で日出町と単純な比較はできないが、地方での地域公共交通の充実ハードルが高いと感じました。

B) 企業誘致について

みよし市での研修の市長挨拶で「企業誘致には市長の働きかけが大切です。セミナーなどでの働きかけではなく、トップセールスで PR を行います」と。みよし市には企業進出についての相談の電話や来庁などが多いそうです。東海地区での交通アクセス（利便性）がとてもよく、輸送コストの削減にもつながる、また関連企業へのアクセスがよく納期の短縮になることもポイントが高いことがみよし市を選ぶ理由だと説明を受けました。みよし市に企業が多く進出することで、令和 4 年 3 月に伊勢湾岸自動車道に「刈谷スマートインターチェンジ」が開通し、さらに利便性が向上しました。みよし市は「新市街地検討ゾーン」や「開発誘導ゾーン」の地域を企業誘致の候補地として提案や開発を進めています。開発支援として既存の用地を案内するのではなく、企業にとって必要面積のみを個別に開発するスタイルで企業誘致を進めています。また、みよし市独自や愛知県と連携した補助金や奨励金の制度を積極的に勧めています（企業支援ガイドブックの配布）。最後に令和 5 年 2 月に操業したパイロットインキみよし工場を現地視察しました。この 30 年で人口が約 3 万人から 2 倍の約 6 万人に増えたのは、企業誘致による「働く場」ができたことによるもの大きいと感じました。自治体が豊かになることで、子育て・教育・福祉・防犯・安全などの面でも充実を図ることができた良い例です。



みよし市さんさんバス バスマップ 折りたたむと 14×10cm

調査研究・政策提案事項

① ハラスメントについて

ハラスメントはとてもデリケートな問題。議会でハラスメントについての条例制定が望まれています。議会内でのハラスメント、議員から町職員に対してのハラスメントを想定しての条例

制定が考えられます。条例制定の前に、町職員（職員労働組合、幹部職員）とのハラスメントについての意見交換を行い、現在の状況を把握することも必要です。また、ハラスメントの相談窓口を設け、相談しやすい体制作りも必要だと思います。

②総合計画策定におけた取り組みについて

日出町でも「総合計画」が策定されています。計画の目標達成のため、適宜の進捗状況の確認や世の中の動きの変化に合わせた計画の見直しが求められます。

③地域公共交通について

今回の視察研修では岐南町とみよし市での地域公共交通の状況を知ることができました。人口や自治体の面積、地形などで地域交通の取り組みは変わると思います。

参考までに、今回視察した3市町の人口や面積などのデータ（人口はR6年10月末現在）

〈日出町：人口 27,860人 面積 73 km² 人口密度 372人/km²〉

・ 岐阜県岐南町 人口 26,161人 面積 7.9 km² 人口密度 3307人/km²

・ 愛知県東郷町 人口 43,875人 面積 18 km² 人口密度 2433人/km²

・ 愛知県みよし市 人口 62,100人 面積 32 km² 人口密度 1929人/km²

日出町の場合は、以下の2点での対応が望ましいと思われます。

●デマンドバスで乗降客の多かった地点を停留所としたコミュニティバス。

内回りと外回りを設ける。

●タクシー乗車補助券の発行

④高校生との意見交換について

日出町でも是非行ってほしい取り組みです。日出町内の高等学校は日出総合高等学校があります。町内在住者だけでなく町外からの通学者も多数居ると聞きます。町外からの通学生にも日出町への意見はあるはずで、学生目線での意見を聞き、町政に活かすことができると思います。東郷町では、中学生とも同様の意見交換を望んでいました。日出町でも同様に中学生との意見交換、さらには小学生との意見交換を行ってもよいと思います。年齢が違うことで、それぞれの意見を聞くことができます。

⑤企業誘致について

小山みよし市長の挨拶にあったように「企業誘致には市長の働きかけが大切です。セミナーなどでの働きかけではなく、トップセールスでPRを行います」この考えに同感します。セミナー参加を否定するわけではありませんが、人とのつながりを活かしたトップセールスは大切です。日出町でも安部町長が先頭に立ってのトップセールスに期待します。私は町長や担当課への情報提供を行うことで、企業誘致の役に立てばと思っています。

以上

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	工藤健次
視察先・視察日	岐阜県岐南町 令和6年10月30日 愛知県東郷町 令和6年10月31日 愛知県みよし市 令和6年11月 1日
視 察 目 的	町の課題等の解決に向けて先進地の取組への調査
研 修 内 容	
<岐南町> Ⅰ. 視察研修事項 ①ハラスメント事案に関する第三者委員会の発足の経緯、委員会の運営等 ②第6次総合計画策定に向けた取り組み ③地域公共交通 人口25,000人の町で議員定数10名の少数で議会運営を行っており、ハラスメント事案に対する第三者委員会を立ち上げてアンケート、ヒアリング調査を実施、調査への妨害もあったがハラスメント行為があったと認めた。 原因・背景・再発防止の提言等をまとめて、「町長の即時辞職以外の選択肢はない」意見に至ったそうで、説明を受けて委員会と議員の質の高さを感じました。 第6次総合計画（みんなでつくる魅力あるまち・ぎなん）は中間期で、この間に給食費の無償化を実施、合計特殊出生率は県内1位で町の取組に活力を感じた。 公共交通の基本計画の目標は①多様なニーズに対応した公共交通ネットワークの構築②公共交通の利用拡大③持続可能な公共交通体系の実現で、コミュニティバスを運行していたが利用者の減少などの課題を抱えており、地域性にあった公共交通の構築が重要であると思った。	
<東郷町> Ⅰ. 視察研修事項 ① ハラスメント事案の特別検証委員会 ② 議員と高校生のしゃべり場 人口43,000人の町で議員定数は16名で議会運営を行っており、ハラスメント特別検証委員会（議長を除く15名）を立ち上げて、ハラスメント事案の調査・原因究明及び再発防止についての対応などを調査検討していた。 弁護士3名の第三者委員会も設置し、報告を受けて方向性を決めたとのことでした。 また議会では政治倫理審査会を委員8名、任期2年で設置しており審査請求の適否、又は政治倫理基準などに違反する行為の存否について審査するとのこと。 議会の取組や姿勢を学ばせて頂きました 議員と高校生のしゃべり場は、次世代を担う高校生が町政について理解を深める機会とするとともに町政や議会に対する意見や要望を聞く機会として開催していた。 高校生（生徒会メンバー）と終業式に意見交換会を実施し、危険箇所マップを作ったり、広報誌へのアドバイスをもらったりして反応が良かったとのこと。 若者へ議会を知ってもらおう取り組みの参考となりました	

<みよし市>

Ⅰ. 視察研修事項

①地域公共交通

③ 企業誘致

みよし市は、名古屋市と豊田市の間であって人口61,000人で人口増加が続いているとのこと。

公共交通は多くの人動く東西は、鉄道や路線バスが運行、南北の広域的な移動は路線バス、地域的な移動はさんさんバスが運行、乗継タクシーや一般タクシーが公共交通を補完しておりそれぞれが役割を持ち断層的にカバーしていた。

バス利用が困難で外出を控えている市民を対象として、お出かけタクシー実証試験の取り組みも終わったところでした。

市内公共交通の人口カバー率（駅から800m、バス停から500m圏内）が96.6%となっており、総合的に利便性が高いと感じた。

企業誘致は新市街地検討ゾーンや開発誘導ゾーンの地域を優先的に提案、開発を進めており、新市街地検討ゾーンは将来的な市街化区域への編入を検討していくエリアに位置付けていた。

相談者には支援措置を窓口で説明し、利用可能な奨励金、補助金などについて記載した企業支援ガイドブックを配布している。

奨励金や補助金も大事な要素で充実を図るべきであると思った。

研修結果・政策提案事項等

岐南町、東郷町とも議員が町長になってハラスメントで辞職しており人間性（性格）の問題であるが、変革の時代の中いろいろな人がこれからは首長や議員に挑戦して誕生していくものと思われます。ハラスメントをなくすには条例や規程等の制定が必要であると強く感じました。

公共交通は、地域性がある大変難しい問題であるが、我が町の交通弱者の現状をしっかり把握するとともにタクシー会社が三社あり、利用する人の利便性とタクシー事業者との共存を追求していくことが重要である。

タクシーを中心とした交通体系を構築すべきでチケット補助等を考えていく時期が来ていると思った。

みよし市は名古屋と豊田市の間に位置しており、地の利に恵まれていたので我が町も地の利を生かした企業誘致を積極的に行うべきである。

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	上野 満
視察先・視察日	岐阜県岐南町・令和6年10月30日（水） 愛知県東郷町・令和6年10月31日（木） 愛知県みよし市・令和6年10月1日（金）
視 察 目 的	ハラスメント事案に関する第三者委員会について（岐阜県岐南町） 地域公共交通（岐南町コミュニティタクシー）について（岐阜県岐南町） ハラスメント事案検証特別委員会について（愛知県東郷町） 議員と高校生のしゃべり場について（愛知県東郷町） 地域公共交通について（愛知県みよし市）
研 修 内 容	
◎ハラスメント事案に関する第三者委員会について（岐阜県岐南町） 設置に至るまでの経緯 調査内容及び調査結果 ◎地域公共交通（岐南町コミュニティタクシー）について（岐阜県岐南町） コミュニティタクシー・コミュニティバスについての説明 ◎ハラスメント事案検証特別委員会について（愛知県東郷町） 設置に至るまでの経緯 調査内容及び調査結果 ◎議員と高校生のしゃべり場について（愛知県東郷町） ◎地域公共交通について（愛知県みよし市） さんさんバス、乗継タクシーについての説明	
研修結果・政策提案事項等	
首長や議員のセクハラやパワハラのニュースをよく耳にするようになった。以前からあったのであろうが表面化されることは少なかった。これにともない、全国でハラスメント防止のための条例を制定する自治体が増えてきている。大分県内では、条例を制定している市町村はまだないが、別府市がハラスメント防止規程の制定作業を進めている。日出町もハラスメント防止のために早急に条例等を制定すべきと考える。 公共交通については、コミュニティバスの停留所からの予約制の乗継タクシーとの併用が便利だと感じた。料金もコミュニティバスは100円である。岐南町では免許返納者は無料で乗車できる。日出町でも検討すべきと思う。 みよし市議会は高校生との意見交換会を定期的の実施している。日出町議会も中学校での出前授業を実施した。若者の意見、考えを聞くことも重要なので中高校生を対象にした意見交換会を定期的の実施していきたい。	

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	衛藤 清隆
視察先・視察日	10月30日(水)～11月1日(金) 岐阜県 岐南町議会 愛知県 東郷町議会 愛知県 みよし市議会
視 察 目 的	岐阜県岐南町議会 ハラスメント事案に関する第三者委員会について 第6次総合計画策定に向けた取り組みについて 地域公共交通について(岐南町コミュニティタクシー) 愛知県東郷町議会 ハラスメント事案検証特別委員会について 議員と高校生のしゃべり場について 愛知県みよし市議会 地域公共交通について 企業誘致について
研 修 内 容	
ハラスメント事案に関する第三者委員会について(岐南町) 岐南町では町長就任早々の時期にセクハラ相談が寄せられ、副町長の注意を受け止める事なく、逆に犯人捜しを続けたというハラスメント事業が発生し、第三者調査委員会を設置する。県弁護士会から推薦を受けた弁護士3人と委託契約する。議会にも町長の進退についてとハラスメント事業に関する第三者調査委員会からの説明があり(要綱、指針について)、町長に対する不信任決議案が提出され町長は辞職する。 新しい町長には後藤女性町長が就任する。 ハラスメント事案検証特別委員会について(東郷町) 東郷町では町長の言動によるハラスメント事案が発生し、事案を検証する為の特別委員会が議員で構成されている。(議長を除く)目的としては町長のハラスメント案件及び問題行動に関する調査又問題行動に関する原因究明、それに対する対策、そして再発防止等です。これによって町長の、ハラスメントの告発を事実として確認をした。 第6次総合計画について(岐南町) 2020年から10年間を計画期間として策定した。新たなまちづくりの指針については、行政だけでなくみんなでつくる魅力ある町として住民や民間団体をはじめとした住民想い(提案)を計画に反映した「協働」「共創」のまちづくりを計画の策定方針にしたとの説明を受けました。審議会の委員には議会の代表として3人が委嘱されています。 地域公共交通について(岐南町、みよし市) 岐南町ではコミュニティバスとタクシーの併用で行っており、コミュニティタクシーの停留所は77ヶ所に増設していて利用料金は200円とのことです。	

コミュニティバスについては1乗車100円で75歳以上、運転免許証返納者、小学生以下のこども、障害者は無料です。

また、コミュニティタクシーは予約や確認の電話が必要な為、高齢者等には利便性に問題があり、利用方法の改善も必要になるとの説明がありました。

みよし市では、今おでかけタクシー実証実験を行っています。

バスの利用が困難で外出を控えている市民を対象に、一般タクシーを利用して定額運賃300円で目的地まで移動するサービスです。

その他、地域公共交通の利用実績と公共交通計画改定に係るアンケート結果についての説明がありました。みよし市では都市化している傾向もあり、鉄道や路線バスが運行されていて普段の移動で困っている程度では80%を超える住民が困っていないと回答している

議員と高校生のしゃべり場について（東郷町）

若い声を町政にと開催された議会と高校生のしゃべり場については、広報広聴委員会との意見交換会ではテーマを設定して生徒と議員で本音のしゃべり場として開催されましたが、生徒からは「ハイギかいです」は難しくて読む気がしないとの指摘があり、議会の力不足を痛感したとのことでした。

企業誘致について（みよし市）

みよし市は恵まれた立地条件を活かし、名古屋市や豊田市のベッドタウンとして住宅開発が進んでいる市で、トヨタ株式会社の4つの工場が立ち並ぶなど、自動車関連企業が数多く立地している。今も工業団地造成工事が進められています。そして立地企業には促進奨励金や活性化補助金等の支援を準備しているとのことでした。

企業からの事業所拡張や移転については、開発誘導ゾーンの範囲内での土地利用を検討して頂くとのことでした。現地視察では工業団地に進出したパイロットボールペンの会社を紹介されたところでした。

研修結果・政策提案事項等

ハラスメント事案は現在、日出町では発生していませんが、今後の対応としてハラスメント事案に対する問題行動に関する調査、また原因究明等をしていく為に、議会内でハラスメント事案検証特別委員会を設置して単独条例をつくっておいてもよいのではと思います。

公共交通に対しては、岐南町では60代以上の利用者が70%を超えています。日出町でも同じ状況だと思います今運転免許証返納者や高齢者が増加していく中で、移動手段をどのように確保していくのかということが一番だと思います。来春の改正時期には住民が日常生活で気軽に移動できる公共交通のあり方を考えて頂きたい。また、考えていきたいと思っている所です。

企業誘致については、日出町は造成工事に取りかかる状況です。これからの誘致については町民の声を聞き、発展する日出町になるよう、議論して頂きたい。また、いきたいと思っています。

視察研修については年1回の研修です。実際に現地に行って現場の声を聞き、議会や町政にどのように取り入れて行くのか考えることに意義があると思います。

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	河野 美華
視察先・視察日	岐阜県岐南町 10月30日 愛知県東郷町 10月31日 愛知県みよし市 11月1日
視 察 目 的	ハラスメント条例の制定、地域公共交通、企業誘致等先進事例を学ぶ
研 修 内 容	
岐南町では2023年5月に発覚した前町長のハラスメント事案に関して、発覚してからの庁舎内での対応や第三者委員会の設置について、また要した時間や費用等を時系列で詳細に説明いただいた。地域公共交通についてはコミュニティタクシーを核としてニーズの高い町外の病院への利用もできる仕組みとなっはいるが、課題もまだあるということだった。 東郷町では2023年に起きた前町長のハラスメント及び問題行動事案が、全議員への匿名での手紙による発覚だったこともあり、議会としてもすぐに動く必要があるということで議長を除く15名で構成するハラスメント事案検証特別委員会を速やかに立ち上げていた。議員と高校生のしゃべり場では高校の生徒会役員と議員との座談会を開催しており、議会に関心を持ってもらえたり、若者の意見を参考にできるメリットがあるということであった。 みよし市では交通網が充実しており、名鉄電車や名鉄バスが走っていることに加え、それだけでは空白地となっている部分に市が運営するさんさんバスと乗り継ぎタクシーや一般のタクシーで補完している。1回100円で市営のバスと乗り継ぎタクシーを利用できることで破格で驚いた。企業誘致に関しては市長や担当課が足を使って企業訪問をすることはもちろん、誘致用に土地を造成するなど積極的に誘致できるように取り組んでいた。開発した工業団地の土地も現地視察にて拝見させていただいた。	
研修結果・政策提案事項等	
岐南町と東郷町では結果的に首長が辞職したほどのハラスメント問題を首長自身が起こしており、事態が発覚した際、職員の懲戒処分の基準等に関する規定はあったものの首長は対象外となっていたため首長も対象に含むハラスメント条例の制定に向けて現在取り組んでいた。視察前は日出町でもハラスメント条例を作りたいという意見があったが、2町での研修を終えてみて、町職員と議会の両方に対するハラスメント条例を作ることは対象が異なるため難しいと感じた。条例づくりは対象を職員と議会とを分けて考える必要があるが、議会に関しては、ハラスメントに関する規程づくりも一つの方法ではあるが、ハラスメント行為を行っている自覚のない方に気づいてもらうことがまず必要なことだと感じた。 条例制定の有無に関わらず、ハラスメントが起こらないことが重要でありハラスメントを起こさせない環境整備や研修などに議会も力を入れることが大切だと感じている。 企業誘致に関しては市長が積極的に企業を訪問されている印象を受けた。新工場建築の	

候補地にみよし市を選んだ企業側の理由として、交通の利便性の良さや県の中央部に位置しているみよし市の場所の良さがあげられており、日出町も条件的には同じであり、造成をスタートする川崎工業団地をいかに発信しアピールしていくのが鍵となると感じた。

また企業が来た際に起こる交通渋滞等の問題も考えられることから、行き当たりばったりではない、総合的な町づくりをしっかりと考えながら工業団地の造成や企業誘致を行っていくことが重要だと思う。

地域公共交通に関しては岐南町もみよし市も住民ニーズの高い隣町の総合病院などにコミュニティバスやタクシーを利用できるようになっており、地域交通の利用割合が高かった。ともにタクシーやバスとの協議会で大きな問題は起きずスムーズに町外への相互乗り入れが可能となったとのことで、その点が大きく日出町とは異なっていた。

また、みよし市内では公共交通による大量輸送から個別輸送まで民間と行政がそれぞれに役割を持ち、住民の移動ニーズに合わせて階層的にカバーされていたが、同じような仕組みで日出町でもやれそうだと感じた。どちらの市町も「地域公共交通は公共交通の補完ではなく福祉施策である」という思いで取り組まれていた。岐南町の議長が言われていた「福祉施策と捉え、高齢者や障がい者にはドア to ドアでいいのではないか」との意見に私も同感だ。今後は公共交通は福祉施策という視点で、今視察で学んだことを町へ提案を行っていきたい。